四門会

第18号

聖マリアンナ医科大学

耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

1．巻頭言------肥塚　泉　（3）
2．医局長挨拶------宮本康裕　（5）
2．医局員構成------　（6）
3．関連病院だより------　（7）
4．医局報告
　　外来担当表------　（13）
　　関連病院連絡表------　（15）
5．専門外来紹介------　（16）
6．科学研究費------肥塚　泉（20）
7．実験中------釼持　睦（21）
8．大学院------三上公志（22）
9．新入医局員　------川上猛敬（23）
10．医局旅行報告　------齋藤善光（24）
11．OB だより　------高橋佳孝（25）
12．国際学会報告　------向出光博（26）
13．産休を終えて　------平野佳美（27）
14．平成 21 年度同門会理事会議事録 ------　（28）
15．会則　------　（29）
16．編集後記　------渡辺昭司（33）

巻頭言

平成 22 年 10 月 26 日
肥塚　泉

－平成 22 年度の出来事－

早いもので、四門会誌の巻頭言の原稿を書く季節となった。記録的な酷暑の記憶がやっと薄れかけてきたところであるが今年も、厄介な事件や出来事を耳にすることが多い年であった。今年のキーワードとして、冤罪、怪談、奇跡の生還の 3 つを挙げさせていただく。

第 2 次世界大戦下に発生した横浜事件で逮捕起訴された元出版社社員（故人）に対して横浜地方裁判所は遺族側の請求を認め実質、無罪が認定された。1961 年に発生した名張毒ぶどう酒事件の第 7 次再審請求で死刑囚が最高裁判所に申し立てていた特別抗告に対し、最高裁判所は審理の差し戻しを言い渡し、同時に死刑囚の刑執行が停止された。1990 年 5 月 12 日、栃木県足利市にあるパチンコ店の駐車場から女児（4 歳）が行方不明になり、翌朝、近くの渡良瀬川の河川敷で遺体となって発見されたいわゆる足利事件の犯人として逮捕起訴され、実刑が確定して服役を余儀なくされた男性（菅家利和さん）と、遺留物の DNA 型が一致しないことが 2009 年 5 月の再鑑定により判明し、冤罪であったことが発覚した。服役中だった菅家利和さんはただちに釈放され、その後の再審で無罪が確定した。障害者団体向け割引郵便制度悪用事件で障害者団体に対し嘘の証明書を発行したとして虚偽有印公文書作成・行使罪に問われていた元・厚生労働省雇用均等・児童家庭局長村木厚子さんに大阪地方裁判所は無罪判決を言い渡した。今年は以上のような事案が多く、"冤罪" という言葉を耳にすることが実に多い年であった。特に村木厚子さんに関しては、部下だった上村勉被告から証拠品として押収したフロッピーディスクの内容を捜査に有利な内容に改ざんしたとして証拠隠滅の疑いで大阪地検特捜部の主任検事が逮捕され、改ざんの事実を知りながらこれを隠したとして当時・元主任検事の上司だった大阪地検前・特捜部部長と前・特捜部副部長が、犯人隠避の疑いで最高検察

庁に逮捕されるというお粗末な顛末となった。腐敗した国家権力に、我々は一体何を信じて生きてゆけば良いのかということを、いやというほど考えさせる事件となった。また東京都足立区の 111 歳とみられる男性のミイラ化した遺体が見つかったことが捜査関係者の取材で明らかとなった。以後、所在不明高齢者問題に発展し、あり得ない年齢の超々高齢者が何人も書類上は、生存していることが全国で次々に判明した。IT 化された現代に、こんな“怪談”のような事件が起こったことに、国民全員が驚きを隠せなかった。

一方、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還、チリ落盤事故救出は、今年を象徴するもう一つの印象的な出来事となった。2003 年 5 月 9 日に打ち上げられた「はやぶさ」は、小惑星「いとかわ」に到達後、エンジントラブルを含め、様々なトラブルを克服して地球に無事帰還した。また 8 月 5 日にチリ北部にあるサンホセ鉱山で起こった落盤事故で地下に閉じ込められた 33 人の作業員全員が無事、救出された。これら 2 つのエピソードは“奇跡の生還”として報道され、我々に「決して諦めない」ことを学ばせてくれる感動的な出来事となった。

以上のように今年も“波乱万丈”の年であった。私が耳鼻咽喉科教室の教授を拝命してから 10 年 8 カ月が経過した。それなりに“波乱万丈”の 10 年 8 カ月であった。マラソンに例えると、ちょうど折り返し地点を過ぎたところである。医局の更なる発展を目標にこれからも、先生方のお力添えをいただきながら「決して諦めないこと」をここに記して、巻頭言とさせていただく。(参考文献：Wikipedia)

渡辺昭司作

局長あいさつ

宮本康裕

医局長を2年務めさせていただき、早くも残すところ数ヶ月となります(現時点では、3年目を迎えることが濃厚な状況となっておりますが・・・)。なぜか自分は節目の年と縁があるようで、本年度は肥塚泉教授就任10周年記念祝賀会を無事に迎えることができました。遡ってみると高校は開校110期生、大学は20回生と不思議と節目と縁があるようです。

医局長の最大の責務は医局員の増員と現医局員が安心して働くことができる環境づくりと考えています。昨年度は齋藤善光先生、今年度は川上猛敬先生が入局され、非常に喜ばしく思うとともに、せっかくマリアンナの耳鼻咽喉科を選んでくださった先生方を一人前の耳鼻咽喉科医として育てる責任というものを痛感しております。ただ、教室を卒業し新たな道を選択される先生方もおられ、医局員数はここ数年減少の一途をたどっております。そこで、初期臨床研修を終えられた先生やこれから初期研修を迎える学生達に、何とか耳鼻咽喉科の魅力や医局の魅力が伝えられるように頑張っていきたいと思います。

そのために行うべきこととして

1. 耳鼻咽喉科教室のHPの改定
2. 後期臨床研修プログラムの作成
3. 夜間急患センターをはじめとする夜間・休日救急対応の医局員負担の軽減
4. 新入医局員のさらなる獲得
5. 大学および関連病院の人材派遣のルール作り

を何とか早急に行いたいと考えております。皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと考えておりますのでこれからもよろしくお願いします。

これからも耳鼻咽喉科教室がますます発展していくためには、同門会の先生方の協力なくしてできません。これからもご指導ご鞭撻、またご協力をお願いいたします。

医局構成

平成 22 年 10 月 1 日現在

名誉教授	竹山　勇
客員教授	大橋　徹・加藤　功
教　　授	肥塚　泉
准 教 授	岡田智幸・堤　康一朗
講　　師	漆畑　保・渡辺昭司　佐々木祐幸
助　　教	宮本康裕（医局長） 赤澤吉弘・大塚崇志・春日井　滋・桑原大輔・齋藤　晋 杉山　裕・鈴木一輝・高津光晴・田中泰彦・中村　学 平野佳美・俵道　淳・深澤雅彦・向出光博・矢野裕之 山口央一
任期付助教	及川貴生・川上猛敬・齋藤善光
大学院生	三上公志
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 木下裕継・工藤典代・釼持　睦・佐藤成樹　新谷敏晴 高橋　姿・武田憲昭・中村　正
登 録 医	北島明美・スミス馨子・宮部　聡
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・新橋　渉・平沼良一・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	北山　愛

関連病院

麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、島田総合病院、国立病院機構横浜医療センター、聖ヨゼフ病院、総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、横浜甦生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

（50 音順敬称略）

関連病院便り

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科

部長：岡田智幸
俵道　淳
田中泰彦
平野佳美

平成22年4月からは、私 岡田智幸、俵道　淳先生、田中泰彦先生の3人の専門医、臨床指導医体制で臨んでいます。幸いにして、10月からは、育児休暇明けの平野佳美先生を迎え、第3、4、5水曜 芋川英紀先生、第1、3木曜 釼持　睦先生、第2、4木曜 佐藤成樹先生が応援にそして監視役として外来に来ていただいております。

平成21年度の手術室での手術件数は、207件（小手術を含めて237例）で、その内訳は鼻・副鼻腔手術74、口蓋扁桃摘出術34、ラリンゴマイクロサージェリー 31、唾液腺疾患手術 21、鼓室形成術 9、先天性耳瘻孔9その他と、肥塚教授、芋川先生、釼持先生、赤澤吉弘先生のご協力を得て、前回の専門研修認定施設更新申請（今回更新申請）時よりも手術室での手術件数は 17 件も増え、全診療科の診療報酬の 2%前後の占有率で西部病院内の耳鼻咽喉科の確固たる位置を築かせていただいております。

これも、瀬谷区、旭区、保土ヶ谷区、泉区の近隣の開業の先生方、M-netの会（アリアンナ卒業生による西部病院地域連携の会：代表世話人　本学 5 回生 金子裕一先生）と当教室OBの鳥越達也先生、勝見直樹先生、尾谷良博先生、小宅大輔先生、最近開業された信清重典先生のご協力あっての賜物と感謝しております。外来および入院診療では、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺患者が多く、西部病院開院以来、長年お手伝いしていただいている検査技師の岡本直子、畠山ひろみの両技師さんのご苦労には感謝、ただ感謝の一言につきます。これからも、西部病院をよろしくお願いいたします。

川崎市立北部多摩病院

部長：堤康一郎
桑原大輔
中村　学

平成22年4月より、堤　康一朗、桑原　大輔、中村　学の3名で診療にあたっています。

水曜・木曜をメインの手術日として、その他外来や病棟の診療を行っています。

通常の診療のほかに、他科やSTとの連携で入院患者さんの嚥下機能評価等も行っております。今年度は8月、9月に研修医が1名当科を選択し、手術や診療など研修していただきました。

川崎市立多摩病院の立地と病院理念から、近隣の診療所や病院から患者さんをご紹介いただくことも多く、地域の医療に貢献できるよう心掛け、診療にあたっています。

平成21年度の当院当科の手術件数は以下の通りです。

総手術件数	約180件
手術内容	両側口蓋扁桃摘出術
	アデノイド切除術
	内視鏡下鼻内手術
	ラリンゴマイクロサージェリー
	耳下腺腫瘍摘出術
	顎下腺腫瘍摘出術（顎下腺唾石症を含む）
	甲状腺腫瘍摘出術
	先天性耳ろう孔摘出術
	下口唇のう胞摘出術
	鼻粘膜焼灼術（Celon；高周波凝固）
	等

手術内容は、悪性腫瘍の手術を除く耳鼻咽喉科一般の手術を全般的に行っております。

横浜総合病院

部長：赤澤吉弘

横浜総合病院に私が赴任して2年目となり、現在は赤澤（卒後13年）、山口（卒後8年）の常勤2名体制で診療に当たっています。また肥塚教授が月曜日午後の外来と中耳手術にいらしており勉強させていただいています。

当院は400床の中規模病院でスタッフも気さくな人が多く、検査や入院など比較的無理がきくので、我々医師としては働きやすい環境の病院です。このところ近隣の大病院が相次いで入院制限を行っているためか、当院に入院要請が来ることが多くなったと感じています。検査設備は専門性の高いものはありませんが、必要十分のものが揃っており日常診療に不満を感じることは殆どありません。

入院患者は急性炎症、突発性難聴、顔面神経麻痺、めまいが中心です。青葉区という地域性のためか低音障害難聴やめまいの患者様が多いように感じます。手術は悪性疾患を除いて出来る限り当院で行うようにしていますが、ハイリスクの方は大学にお願いしています（大学の先生方ありがとうございます）。耳疾患手術については先に述べたように肥塚教授にいらしていただいております。私は大学で喉頭・腫瘍を中心に担当しておりましたので、苦手な分野の手術もありましたが先輩の先生にいらしていただき、だいぶ経験をつむことができました。木下先生、釼持先生この場をかりてお礼申し上げます。今後も疾患に偏りなく手術をこなしていけるように心掛けてまいります。

～平成21年4月から平成22年3月における手術件数～
先天性耳瘻孔（5）、外耳道形成術（1）、鼓室形成術（5）、鼻中隔矯正術（11）、内視鏡下鼻内手術（28）、副鼻腔良性腫瘍手術（1）、口蓋扁桃摘出術（13）、舌口腔良性腫瘍手術（1）、LMS（6）、気管切開（2）、頸部郭清（1）、顎下腺良性腫瘍（1）、甲状腺良性腫瘍（4）、甲状腺悪性腫瘍（1）
その他、鼻茸・鼻粘膜焼灼・唾石・リン摘・鼓室チューブ留置などの小手術を含め、年間170件の手術を施行し日耳鼻認可研修施設の更新を行ないました。

医療法人　社団亮正会

総合高津中央病院

部長：矢野裕之

高津中央病院は JR 南武線と東急田園都市線の交差する高津区溝の口というところにあります。川崎市の中部に位置するこの病院で、地域住民の方々に少しでもお役にたてるように、そして地域の開業医の先生方に気軽に利用していただける入院施設を持った耳鼻科という役割を全うするために日々業務を行っております。

着任いたしましたのが本年 4 月。信清先生、島田先生の後を受けてのことになります。当初の予定では着任時から私一人が常勤医となる予定でしたが、7 月末までご厚意で信清先生が常勤医として残っていろいろ手助けしてくださいました。信清先生には開業準備でお忙しいにもかかわらず大変お世話になりました。この場を借りまして御礼申し上げます。

8 月以降現在まで、常勤医は私一人となり、至らないながら日々の外来・手術をおこなっております。

急性疾患に対する入院治療は随時行えるように体制を整えております。空床も比較的多いので速やかに対応できております。一方で手術は一人で行えるものに限られているのが難点です。

今後はさらに施設の充実を図り、医療の質の向上を目指します。

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター（旧国立横浜病院）

部長：佐々木祐幸

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター（旧国立横浜病院）は横浜市戸塚区に位置し、国道１号原宿交差点のすぐ近くにあります。H22 年４月１日から私（佐々木）が１人部長として出向しています。病院本体も４月１日から完全リニューアル（同じ敷地内に新病院を建設して移転）を済ませたばかりで、何もかも新しくキレイです。地上７階、510 床の病院は完全な免震・耐震構造になっています。

外来では電スコ、ハイビジョンカメラヘッド、赤外線フレンツェル装置、OtoLAM がすべて 3z 社の EZcap という画像保存システムに連結されており、静止画、動画を問わず簡単に録画・再生・出力が可能で大変重宝しています。初診患者の鼓膜・前鼻鏡・咽頭所見は、中耳・鼻咽頭ファイバーを用いてすべて内視鏡画像で保存するという、かねてから理想としていた電カル記載を具現化すべく努力しています。10 月の１日平均外来受診者数は 25 人程度です。また補聴器外来を H22.7 月から開始しており、補聴器適合検査の患者数も順調に伸びています。

入院数はあまり思わしい伸びがなく、４月からの平均では 1.4 人/日。めまい、突難、扁桃周囲炎などの紹介入院が中心です。現在までの全身麻酔下手術内訳は扁摘２件、内視鏡下鼻内手術５件、鼓膜形成術、耳瘻孔摘手術、鼓膜換気チューブ挿入術、気管孔形成術が１件ずつです。甲状腺手術は外科が担当しております。手術器具は 10 年近く使われずに放置されていたものがたくさんあり、とりあえずマイクロデブリッダーを XPS の新システムに買い換えていただく予定になっております。

地域の急性期患者受け入れ先病院となれるよう努力します。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

秦野赤十字病院

鈴木一輝

当院は小田急線秦野駅からバスで約 10 分の所にあります。7.8 年前に新病院に建て替えられたばかりであり、病院は非常に清潔で機能面も充実しております（病院長の自慢は地震の際もその衝撃を吸収する耐震構造です）。周囲には山々を見渡せ、空気も非常においしく、水もきれいなためか蕎麦がおいしい所です。

秦野周辺は耳鼻咽喉科の病院・診療所ともに少なく、当院は地域の中核病院としての責を担っております。症例は多岐にわたり、日々様々なことを勉強させて頂いております。現在大橋徹先生が非常勤で週 4 日勤務されております。日頃からよく症例の相談をさせていただき、非常にありがたい存在です。特に先生の専門である難聴に関しましては非常に勉強になります。いまだに日々論文を読みあさり、蝸電図をとりまくり、学会発表・論文投稿をされる姿はさすが、といつも感心させられます。手術も先生と一緒にやらせていただいており、特に専門の中耳手術では勉強させていただいております（平成 21 年度手術症例：扁桃手術 36 件・内視鏡下鼻内手術 31 件・喉頭微細手術 7 件・中耳手術 8 件・頭頸部腫瘍手術 13 件など）。また特に先生の専門の日本酒の事は非常に知識豊富になりました。現在ではかなり日本酒が好きになっております。こちらの方面には盛升という名酒もあり、秦野にいらっしゃった際にはぜひご賞味いただければと存じます。

渡辺昭司作

外来担当表

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科
TEL: 044-977-8111　　FAX: 044-976-8748（耳鼻科医局）, 044-975-0608（連携室）

（平成 22 年 10 月 28 日現在）

		月	火	水	木	金	土
午前	初診	肥塚 大塚	齋藤 （ス）	渡辺 高津	宮本	春日井	大塚
	再来	深澤 春日井 齋藤 （ヨ） 川上	深澤 三上	及川 齋藤（ヨ）	高津 齋藤（ス） 川上	向出 及川	向出 三上
	特殊		**腫瘍** 渡辺 大塚 及川	**喉頭音声** 春日井 向出 赤澤	**喉頭音声** 岩武（1.3）	**めまい** 肥塚 深澤 三上 **腫瘍** 渡辺	
午後				**鼻・副鼻腔 アレルギー** 宮本 高津 川上 宮部（2.4）	**聴覚** 宮本 齋藤（ス） 越智（1.3） 木下 釼持 （2.4.5）		

西部病院　TEL:045-366-1111　FAX:045-366-1190

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	岡田智幸 俵道　淳 田中泰彦	岡田智幸 俵道　淳 田中泰彦	田中泰彦 芋川英紀 (3・4)	岡田智幸 俵道　淳	俵道　淳 田中泰彦	岡田智幸 田中泰彦(4・5)
午後	中央手術	中央手術	中央手術	佐藤(2・5) 釼持(1・3)	検査	

多摩病院　TEL:044-933-8111　FAX:044-930-5181

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	桑原大輔 中村　学	堤康一朗 桑原大輔	桑原大輔 中村　学	手術	堤康一朗 中村　学	交代で１診 (初診)
午後				手術		

出張病院および外勤病院

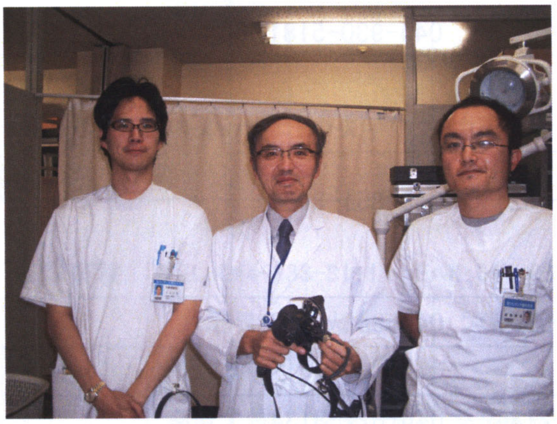
平成 22 年 10 月現在

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田智幸 俵道 淳 田中泰彦	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	堤康一朗 桑原大輔 中村 学	044-933-8111	044-930-5181
国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	赤澤吉弘 山口央一	045-902-0001	045-903-3098
聖ヨゼフ病院	杉山 裕	046-822-2134	046-822-3134
秦野赤十字病院	鈴木一輝	0463-81-3721	0463-82-4416
高津中央病院	矢野裕之	044-822-6121	044-822-7995
癌研有明病院	新橋 渉	03-3520-0111	03-3570-0343
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
島田総合病院	外勤医師	0479-22-5401	0479-23-3613
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
横浜甦生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

専門外来紹介

1．めまい外来

肥塚　泉
深澤雅彦
三上公志



私は、本年度よりめまい外来（金曜日午前中）を担当させていただくこととなりました。肥塚教授と三上先生により行なわれておりました専門外来に、一緒に加えていただくこととなりました。

当科では、前庭代償に焦点をあて、その臨床研究、基礎研究に力を入れております。本外来におきましては、前庭代償の効率を高めるリハビリの検討のため、まずめまい患者における当科独自のリハビリテーションを検討することに力を入れております。現在、めまい・平衡機能障害の客観的評価法の検討という臨床研究テーマのもと、さまざまなリハビリテーション方法を組み合わせ、その効果判定をアンケート調査、温度眼振検査、重心動揺検査、歩行解析検査などを用いて、客観的に評価できるかを検討中です。

また、他施設になく本大学にあります回転椅子を用いることで、耳石機能検査が可能であることを生かし、OVAR（off-vertical axis rotation）に独自の刺激を加えることで、前庭代償と体性感覚の関係性をみる臨床実験（三上公志，鈴木一輝，宮本康裕，深澤雅彦，肥塚泉．体性感覚入力が半規管－眼反射に及ぼす影響．Equilibrium Res, 2009; 68(1): 28-33 掲載、宮本康裕，鈴木一輝，三上公志，深澤雅彦，肥塚泉．体性感覚入力が耳石－眼反射に及ぼす影響．Equilibrium Res, 2010; 69 掲載予定）がなされております。

実際の臨床において行なわれている良性発作性頭位めまい症患者に対する治療といたしまして、Epley 法、Semont 法、Lempert 法など一般的な頭位治療（浮遊耳石置換法）を施行するだけでなく、その他の理学療法として、Brandt-Daroff 法、ROM（rolling-over maneuver）法を指導しております。（A Kitajima, S Sato, K Mikami, M Mukaide, I Koizuka. Does vertigo disappear only by rolling over? Rehabilitation for benign paroxysmal positional vertigo. Acta Oto-Laryngologica, 2010; 130: 84-88 掲載）

メニエール病患者の発作予防対策の基本といたしまして、薬物治療を中心に生活指導を行なっており、保存的治療で発作予防が困難な場合、選択的前庭機能破壊、内リンパ

嚢開放術を選択しています。選択的前庭機能破壊はゲンタマイシン（GM）鼓室内注入療法のうち、鼓膜チュービングをして4日間連続して1日3回GMを注入する方法（shot-gun法）を中心にとり行っております。

基礎研究については、内リンパ水腫モデル動物を用いた研究や、めまいモデル動物を用いた前庭代償の研究（Masahiko Fukasawa, Kazuki Okamoto, Manabu Nakamura, Koshi Mikami, Sonoko Shimada, Yasuhiko Tanaka, Izumi Koizuka, et al. Proteomic Analysis of the Rat Cerebellar Flocculus during Vestibular Compensation. Journal of Vestibular Research 2009; 19: 83-94 掲載）などが検討されております。

医局におきましては、本年待望の入局者が1名、川上猛先生が新しく加わり、久しぶりに明るい話題も出始めましたが、医局員が少ないという大きな問題はあいも変わらず抱えております。肥塚教授をはじめ、三上先生ならびに、日々の臨床を支えてくださっている医局の先生方には大変感謝しております。この場を借りて深く御礼申し上げます。またOBの先生方におかれましては、引き続き医局員一同、温かく見守っていただくとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。（深澤雅彦）

2．中耳・聴覚・補聴器外来

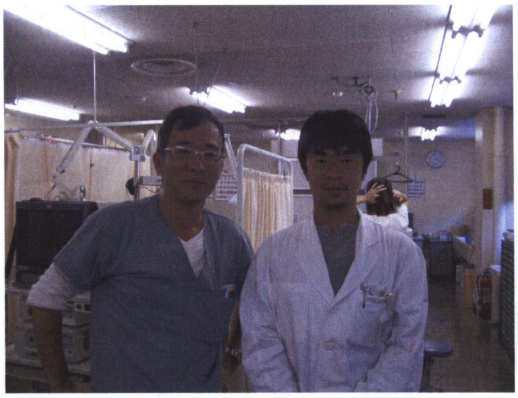
宮本康裕
斉藤晋
木下裕繼（木下耳鼻咽喉科）
（1，3週）越智健太郎（おち耳鼻咽喉科）
（2，4，5週）釼持　睦（耳鼻咽喉科むつみクリニック）

本年度より、月曜日午前に行っていた中耳・顔面神経外来と聴覚・補聴器外来を合併し、中耳から内耳にかけて聴器全体を扱う専門外来としてスタートし、木曜日の午後行っております。

先天性難聴の早期診断および治療を目標としABRを年間約150件行っております。慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する中耳手術（鼓室形成術を中心に）を年間約40例行っております。また補聴器のフィティング指導等も行っております。聴器疾患全般をトータルに見させていただきますので、今後ともよろしくお願いします。（齋藤　晋）

３．鼻・副鼻腔・アレルギー外来

宮本康裕
高津光晴
川上猛敬
（宮部耳鼻咽喉科）宮部聡



本年度より鼻・副鼻腔・アレルギー外来を担当させていただくことになりました 11 年目の高津光晴です。外来は、常勤医：宮本康裕先生、川上猛敬先生、そして非常勤で宮部聡先生にも外来を手伝って頂き 4 名で外来を行っております。診療日は水曜日午後 2 時より行っております。初診患者様の直接紹介も受けております。

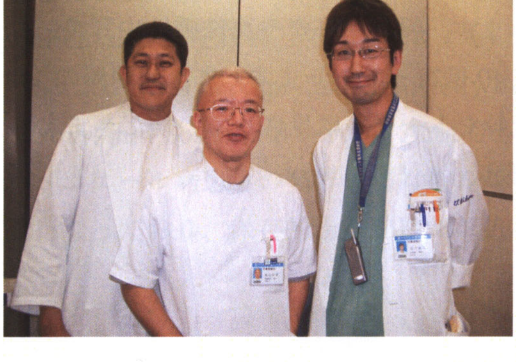
外来の特色としては、

1. アレルギー性鼻炎の診断・治療
   減感作療法（現在は HD、スギのみ）、
   レーザー手術（CO_2 レーザー）：デイサージャリー（要予約）
2. 鼻・副鼻腔手術
   内視鏡手術（デブリッターを用いた Powered E.S.S.を中心に）、特殊な症例に関しては手術支援機器としてナビゲーションシステムも有しております。乳頭腫などの良性腫瘍に対する外切開を併用とする手術も行っております。平成 22 年度は、紹介患者様の増加に伴い上半期で約 50 例の手術を行っております。

これからも、よりよい医療が提供できるよう努力してまいりますので、今後ともご紹介賜りますよう宜しくお願い申し上げます。（高津光晴）

４．腫瘍外来

渡辺昭司
大塚崇志
及川貴生



現在、毎週火曜日と金曜日（渡辺のみ）の午前中に頭頸部腫瘍外来は渡辺、大塚、及川の 3 人で担当しております。内容は主に頭頸部腫瘍性疾患患者の術前、術後のマネージメントや悪性疾患（ターミナル含む）患者に

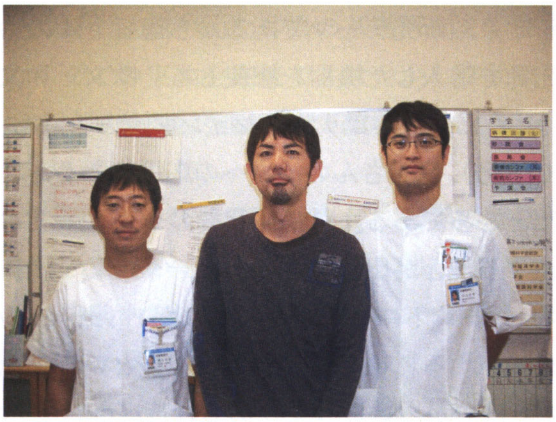
関してはメディカルサポートセンターと密に連携をはかることにより、在宅訪問看護・往診医等の依頼や利用可能なサービスの手続き、ホスピス等の適切な医療機関への転院の準備等、全人的なケアができるよう心掛けております。

入院に関しては腫瘍チーム 7 人（渡辺、大塚、春日井、向出、及川、三上、斉藤善光）で担当しており、年間の手術件数は 180～200 例前後であり、内訳は LMS 60 例、頸嚢胞・甲状腺・耳下腺・顎下腺を含めた良性腫瘍手術 50 例、頸部郭清術・喉頭部分切除・喉頭全摘術、遊離皮弁を用いた再建術等を含めた悪性腫瘍手術を 40 例、その他頸部リンパ節摘出術・気管切開術・気管形成術等も適宜行っております。

今後、よりよい医療が提供できるようチーム一同努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。（及川貴生）

５．音声・喉頭・嚥下外来

春日井滋
赤澤吉弘（横浜総合病院）
向出光博



専門外来は現在、毎週水曜日午前に赤澤先生と向出先生、私の 3 名と非常勤として岩武先生に第 1、3 木曜日午前に来ていただき行っています。主に扱う疾患は喉頭疾患（喉頭腫瘍、喉頭肉芽腫、喉頭白板症、喉頭麻痺など）と嚥下障害が中心です。喉頭悪性腫瘍に関しては腫瘍外来でも診療しています。外来内容は喉頭疾患に対して電子内視鏡、ストロボスコープ、音声機能検査（MPT、MFR）などを行い、必要に応じて手術を組んでいます。嚥下障害に対しては嚥下機能検査を水曜日に内視鏡嚥下機能検査（VE）を、月・金に嚥下造影検査（VF）を行っています。そして毎週木曜日に神経内科、ST、栄養部と合同カンファレンスを行い今後の方針を決めています。嚥下機能検査は外来患者には誤嚥のリスクや嚥下検査食の問題で行ってはおらず、基本的には入院で行っています。

平成 21 度の手術内容は顕微鏡下喉頭微細手術が 42 件、喉頭全摘術 4 件、喉頭部分切除 2 件、声帯脂肪注入 1 件、甲状軟骨形成術・披裂軟骨内転術 1 件でした。喉頭白板症や喉頭乳頭腫に対しては炭酸ガスレーザーを用いて蒸散を行っております。

平成 21 年度の嚥下機能検査は VE 42 件、VF 272 件行っています。

チーム一丸となって喉頭腫瘍、音声障害、嚥下障害に取り組んでいきますので、今後とも宜しくお願いします。（春日井滋）

科研費（日本学術振興会科学研究費補助金）

肥塚　泉

科研費などの公的研究費に関しては、平成 7 年に聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室に着任して以来、比較的潤沢に取得させていただいている。平成 9 年度・基盤研究(C)のテーマは「偏垂直軸回転検査（OVAR）を用いた耳石—半規管連関の解明およびその臨床応用」、平成 13 年度・基盤研究(C)科学研究費のテーマは「リハビリテーションへの応用を目的とした前庭系の可塑性の研究」、平成 18 年度・基盤研究(C)科学研究費のテーマは「音像定位・体性感覚入力を利用しためまいリハビリテーション法の開発」、平成 20 年度・基盤研究(C)科学研究費のテーマは「新規めまいリハビリテーションの開発を目的とした基礎研究」であった。これら以外、平成 10 年には（財）日本宇宙フォーラムの地上研究公募・フェーズ I 研究 (B)「脳内における自己空間マップの可塑性を指標とした、宇宙酔い発症メカニズムの検討」を取得した。これらで得た研究費を合わせると約 2700 万円となる。国民からいただいた税金を用いての研究であるから、それなりの結果（outcome）を出さなくてはならない。outcome はどのような形で出せばよいのか、それは論文の執筆と特許の取得である。臨床医学系の研究テーマであるから患者さんの治療に応用できれば最高である。これらの研究費で購入した機器を駆使して、欧文・和文を含めて約 10 篇の論文が掲載された。また、めまいリハビリテーション関連の特許も、1 件ではあるが取得することが出来た(4504088 号)。患者さんの治療への応用であるが、これに関しては少しその可能性が見えてきたところである。科学研究費の取得、最初はなかなか大変である。しかし一旦これを取得することが出来れば、ある一つのテーマに焦点を絞って、これに関する発表や執筆をコンスタントにしておけばこれが reviewer の目にとまり、比較的取得しやすくなるような気がする。現在は「若手研究」というジャンルがあり、これには、過去の業績を記載する部分がない。つまりある程度“open”な形での審査が行われている可能性がある。しかしながら、reviewer とて、我々と同じ耳鼻咽喉科医である。科研費を取得したいと思うのであれば、地方会でもなんでも良いから、日ごろから学会や研究会で発表をするというスタンスで臨んでおいたほうが良いと思われる。発表も何もしない施設や人に、税金が原資である研究費を与えても outcome を得ることはまず無理であろうと判断されるわけである。近年、税金の使い方に関する国民の意識が高まっている。研究費についても、今後益々これに対する対価が求められるようになると思われる。老婆心ながら 30 年間、公的・私的を問わず研究費を取得することに明け暮れている先輩として、一言述べさせていただいた。

実験中

釼持　睦

大学を退職し、こどもの国駅前に開業して早6年がたちました。現在も動物実験を続けており、年に1度は実験結果を学会発表しております。私の実験経歴、現在の実験についてお話します。

私の動物実験のスタートは、入局当時の主任教授竹山先生のお声かけで大橋先生の下で家兎に慢性電極を挿入して経時的に蝸電図を記録する事からはじまりました。その後、モルモットやラットの蝸電図を記録、更にモルモットのEP(Endocochlear DC potential)を記録しました。大橋先生のおすすめで越智先生の後、1995年から2年間、カナダのEggermont教授の下でネコを用い、聴覚中枢神経レベルでの電気生理学的な耳鳴の基礎研究を学びました。帰国後、越智先生と木下先生と伴にカナダでの実験を継続できないかと実験室の環境づくりからはじめました。科研費を当てては実験機器を購入し、環境が整備され安定した実験結果が出せるようになるまで9年かかりました。

越智先生と木下先生と伴に大学の聴覚外来で診療しておりますので、外来後に実験を行いますので、月2回から3回くらいのペースです。

実験内容は、耳鳴のメカニズムについての基礎実験です。耳鳴の原因の多くは蝸牛の神経スパイクにより発生します。そのスパイクは情報として聴覚中枢神経へと伝わり大脳に送られます。私共の実験目的は、モルモットの大脳にある聴皮質から神経スパイクを記録し、その中にある情報を明らかにすることです。もし、明らかになれば、その情報を分解、消去することで耳鳴の根本治療が可能になります。という夢のような考えを持っております。

最後に、本実験を続けられるのも、肥塚教授の御協力のおかげでございます。この実験を成功させ実績を出す事は、教授への恩返しとなりますので、がんばって結果を出していくつもりであります。

大学院４年生

三上公志

気がつけばあっという間に 4 年が経とうとしています。現在は、卒業にむけて準備をしている状況です。今年は、すでに主論文が掲載されており、気が抜けてしまったため、研究にはあまり身が入っておりませんでした。その分、臨床を主に、昨年に引き続き渡辺先生の元で腫瘍チームの一人として働き、頸部良性手術などをさせていただいております。

そんななか、耳鼻咽喉科専門医試験の直前となった頃に、私の論文に対する第69回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会での学会賞の知らせが届き、驚きとうれしさでいっぱいになりました。あらためて、この論文を作成するにあたってご指導いただいた肥塚教授や一緒に研究を手伝っていただいた鈴木一輝先生、実験の被験者となっていただいた先生方に感謝いたします。引き続き、体性感覚刺激に対する前庭眼反射の影響の研究を頑張っていきたいと思います。

無事専門医試験も合格し、残るは論文の審査となりますが、これからさらに気持ちを引き締めて頑張ります。まだまだ未熟者で、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、今後もご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

渡辺昭司作

新入医局員あいさつ

川上猛敬

平成 20 年卒業、聖マリアンナ医科大学 32 回生の川上猛敬と申します。医師になって 3 年目、入局して 7 ヶ月が過ぎました。急性期班に属しておりまして、ご迷惑をかけながらも日々頑張っております。入局当初は右も左も判らず、研修医であった時との違いを感じるのみで少々不安を感じていました。しかしながら、諸先輩方の親切そして丁寧な指導をして頂きながら、銚子の島田病院での週 1 回の外勤と大学病院での週 3 コマの外来および病棟業務に取り組んでおります。手術に関しましては扁桃摘出術を中心とし、ご指導を承りながら執刀をさせていただいております。

今後の抱負といたしましては、手術は ESS や頚部良性腫瘍などにチャレンジしていきたいと考え、地方会や学会にも精力的に参加し頑張っていきたい所存であります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

渡辺昭司作

医局旅行便り

齋藤　善光

今年の医局旅行は、5/29～5/30 にかけて『南房総　富浦ロイヤルホテル』にて開催を致ました。参加者は、Ｄｒ22 名、Ｎｓ10 名の合計 32 名でした。

この場をお借りして参加してくださった諸先生方に御礼を申し上げます。また、昨年までと比べ、開催場所が遠方ということもあり多大なご迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。

今年度も恒例になりました夕食の宴会を開催いたしました。宴会の際、肥塚先生・大橋先生よりお言葉を頂き今後の診療への活力を得ることができました。また、H22 年度入局した川上先生・Ｎｓ、そして恒例の中村先生に出し物をしていただき、大いに楽しむことができました。

夕食後は各々で朝まで宴会を行っていたようですが、私は、肥塚先生より貴重なワインを頂き、ワインを全く知らない私にとって大変勉強になる経験をさせて頂きました。（ワインを注いで頂いた瞬間に、匂いもかがず一気に飲みほしてしまいましたが・・・。）

前年度と比較して今年度は多数のご参加のおかげもあり、例年以上に医局旅行を大盛況に開催することができました。ありがとうございました。

医局旅行は毎年 5 月末に行っており、様々理由から参加者も減少してきております。ただ、親睦を深め・今後の英気を養う医局行事として大変有意義なものであると感じております。

これからも毎年開催していきたいと考えておりますので、今後とも多数の御参加・御協力のほど宜しくお願い致します。

ＯＢ通信（クリニック便り）

たかはし耳鼻咽喉科

〒339-1117　埼玉県久喜市南栗橋４－１４－１
南栗橋シティーセンタービル２Ｆ
Tel：0480 48 6666
Fax：0480 48 6667

高橋佳孝

北埼玉の田舎にて

まことに勝手ながら昨年度にて医局を離れ、実家近くの田舎町にて小さなクリニック「たかはし耳鼻咽喉科」を開かせていただきました。教授をはじめ多くの先輩方にはお世話になり、退局に関しまして非常にご迷惑をおかけいたしましたことをこの場をかりてお詫び申し上げます。クリニックは北埼玉の果て、利根川に隣接する旧栗橋町にあります。昨年度末の 3 月に市町村合併があり現在は久喜市となっております。以前は湿地帯で田んぼ以外は何もなかったところです。東武鉄道により開発され、東武日光線南栗橋駅を中心にした小さな住宅地です。駅から 2～3 分も歩けば広大な田んぼが広がり（すでに駅前にも田んぼがありますが）商業施設などは皆無の土地柄です。日中に人が歩いているのを見つけるのも難しいくらいです。大学にお世話になってから川崎や横浜など都市圏での生活でしたから、何とも「地方の過疎化」を肌で感じる毎日です。駅前の立地ですが電車を利用しての患者様の来院はほとんどなくアメリカ的車社会が成立するところです。開院当初はなかなか認知されず胃が痛む日々でありましたが最近は徐々に患者様も定着し始めてきました。ありがたい次第です。開院にあたり準備は整えてきたつもりではありましたがいろいろ抜けはあるものです。耳の切創で受診され縫合しようとしましたが・・・あら？持針器がありませんでした。何とか攝子で代用しました。急いで注文です。嗄声の患者様が来られました。喉頭ファイバーをやろうとしましたが・・・あら？画面が白い？そうかくもり止めです。と思ったら無いではありませんか！喉頭鏡で頑張りました。急いで注文です。などなど日々試行錯誤で頑張っています。遠方ではありますが近くに来られましたら是非お立ち寄りください。

国際学会に参加して

向出光博

2010年6月15-18日に韓国ソウルで開催されました、4th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies (IFHNOS) へ参加してまいりました。今回、耳鼻咽喉科から渡辺昭司先生、及川貴生先生、そして私の3人が演題を登録し、及川先生の新妻紫乃さんも韓国へ同行されました。また、放射線科からは高橋美緒先生五味弘道先生、栗原宜子先生も演題を登録されておりました。いずれもポスター発表であり、英語で口頭発表することはありませんでしたが、慣れない英語でのポスター作りに悪戦苦闘し、途中、何度も投げ出そうとしましたが、肥塚先生、渡辺先生に助言、修正をいただき、皆さんの激励、ご協力のもと、なんとか完成させることができました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

国際学会へは初めての参加であり、聞き取れないなりにも英語での発表に耳を傾け、国内学会とは違った会場の雰囲気を楽しみ、大変充実したものとなりました。

また私にとっては初めての韓国滞在であり、焼き肉に冷麺、朝粥とどれも大変美味しい韓国料理や、辛さがたまらない本場のキムチ、マッコリや焼酎などの酒類も思う存分堪能させていただきました。そして満腹になった後は、市内を観光がてら渡辺先生と1時間程度のジョギングへ。流行りの韓流ドラマなど見たことのない二人でしたが、街中の喧騒から離れ、韓国王朝時代の建造物周囲をのんびりと当てもなく走ることは大変贅沢な時間となりました。また、6月17日にはFIFA WORLD CUP南アフリカ大会予選B組、韓国-アルゼンチン戦があり、五味先生達が滞在されたプレジデントホテルからは韓国サポーターで埋め尽くされたソウル広場を眺めながら、エアコンの効いた涼しい部屋でみんなでサッカー観戦まで楽しむことができました。

結局何だか楽しんでばかりの韓国滞在でしたが、今後の課題はやはり英語力であり、次回、4年後にN.Y.で開催される5th IFHNOSへ向け、及川先生は語学習得に勤しんでいる…

産休を終えて

平野　佳美

近年、現場の医師不足の一因として、女性医師の活動率の低下が問題となっています。耳鼻咽喉科の学会でも女性医師の労働環境に関する演題が取り扱われ、同テーマの論文が学会誌の総説に掲載されるなど、事態の深刻さがうかがえます。

私は昨年 11 月に長男を出産し、育児を 10 ヵ月間堪能した後、今年 10 月から横浜市西部病院に職場復帰いたしました。育児休暇明けの復職にあたり、多くの先生方にお力添えをいただき、また、西部病院の先生方には勤務時間の短縮や当直の免除などの条件付きでの復帰を許していただき、大変感謝しております。

西部病院には数年前より医師も利用できる保育園が併設され、保育時間も長く、病児保育もあり大変魅力的ではありましたが、1 時間近い車通勤に子供が耐えられず、自宅近くの保育園を選択しました。職場復帰すれば、中途半端な態度や甘えは許されないと覚悟していたつもりでしたが、地域保育園のため保育時間が短く、発熱などでは呼び出しがあるため、仕事を途中で切り上げて帰宅することもしばしばあり、そのたびに周囲の先生方にご迷惑をおかけすることになり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。同時に、本来の母親の役割である子育てを保育園にまかせ、発熱などの緊急時の対応まで実家の親の助けをあてにして仕事を続けることが家族にとって本当に幸せなことなのか？と自問自答を繰り返しながら毎日を過ごしています。この選択が正しいのか、子供の成長にとってどのような影響があるのか、そして、いつまで続けられるのか、正直なところ、自分でもまだわかりません。

しかし私は、育児と仕事のバランスを取りながら両方をつづけたいと、自らの意思で復職を選択しました。決断したからには前向きに進み、問題が生じたときにはその改善策を今後活かせるように微力ながら、頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第13回四門会理事会議事録

1. 会員数内訳（平成21年12月6日現在）

総会員数：126名

うち現医局員33名

2. 会員移動

委澤　えり子	平成21年3月31日	退職
小宅　大輔	平成21年3月31日	退職
内田　登	平成21年9月30日	退職

3. 新入会員

齋藤　善光　　平成21年4月

4. 退会会員

なし

5. 会計報告（平成20年10月〜平成21年9月）

平成19年度繰越金	¥1,501,298	
	収入	支出
平成20年度会費	¥915,000	
四門会誌第16号印刷費		¥390,000
集合写真(日当込み)		¥70,500
ポスター賞祝い金		¥50,000
慶弔費		¥63,319
振込み手数料		¥210
利息	¥878	
	¥915,878	¥583,029
次年度への繰越金	1,834,147	

6. 平成22年度役員人事

会　長　　肥塚　泉

副会長　　菊池原基敬

推薦理事　肥塚　泉

名誉理事　竹山　勇、加藤　功、大橋　徹

理事　　飯田　順、岩澤　寛、岩武博也、芋川英紀、上杉恵介、越智健太郎、小野泰三郎、勝見直樹、菊池原基敬、木下裕継、劔持　睦、小松崎靖、佐久間惇、佐々木祐幸、佐藤成樹、新谷敏晴、関　良武、高橋　姿、堤康一朗、中島博昭、西野裕仁、服部康介、南　定、宮部　聡、渡辺昭司、渡来潤次

監事　　石倉幹雄、岡田智幸

事務局長　宮本康裕

敬称略、50音順

7. 四門会賞

該当者なし

8. 平成22年度日時

平成22年12月5日（日）

9. その他

① 荻野洋一先生永眠（平成21年3月4日）

開会前に参加者全員で黙祷をささげた。

② 同門会会長の選任に関して

現在、同門会会長を教授が兼任しているが、会長は別に選任すべきとの動議について、全会一致で承認された。次回同門会開催までに、会長選出に関する取り決めおよび会則の変更を下記検討医員にて検討することが決定した。

《検討医員》

岩澤　寛、岩武博也、岡田智幸、越智健太郎、木下裕継、劔持睦、堤康一朗、宮部　聡、宮本康裕、渡辺昭司

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第１章　総　　則

第１条（名　称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第２条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第２章　目的および事業

第３条（目　的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第４条（事　業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

（１）　学術研究会および講演会等の開催

（２）　総会および親睦会の開催

（３）　四門会誌・名簿・その他出版物の発行

（４）　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援

（５）　その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第３章　会　員

第５条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

（１）　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者

（２）　聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者

（３）　本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第６条（会員の入退会手続）

（１）　本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

（２）　前条（3）項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申

込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。

（３） 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得ねばならない。

第7条（会　費）

（１）　会費は細則に定めるところにする。

（２）　会費は前納とする。

第4章　役　員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

（１）　本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。

（２）　役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（３）　役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

（１）　会長は本会の代表し、会務を総括する。

（２）　副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。

（３）　理事は理事会を構成し、この会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。

（４）　監事は本会の業務ならびに会計を監査する。

（５）　事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員の選任）

（１）　理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。

（２）　理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、教授退任後は名誉理事とする。

（３）　会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章　会　議

第12条（総会）

（１）　総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集 する。

（２）　総会は会員の 3 分の 1 以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（３）　総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。

（４）　総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（５）　会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第 13 条（理事会）

（１）　理事会は会長がこれを召集する。

（２）　理事会は現理事数の 3 分の 2 以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（３）　理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

（４）　理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（５）　監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第６章　事務局

第 14 条（事務局）

（１）　本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。

（２）　事務局の構成は事務局長 1 名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。

（３）　事務局長は理事会に出席する。

第７章　会　計

第 15 条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第 16 条（会計年度）

本会の会計年度は毎年 10 月 1 日に始まり翌年 9 月 30 日に終える。

第８章　会則の改正

第 17 条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の 3 分の 2 以上の議決を得

なければ変更することができない。

第９章　その他

第 18 条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

＜附則＞

第 19 条（本会則の発効）

本会則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。

本会則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。

本会則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。

本会則は平成 18 年 12 月 3 日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第１条 本細則は会則第 18 条によりこれを定める。

第２条　（会費）

（１）　会費は年会費とし、次のごとく定める。

・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円

・その他の会員は年額 10,000 円

（２）　70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第３条　（役員の選出）

（１）　役員の定数は、理事　15 名以上、監事２名とする

（２）　選出方法は理事会に一任する。

（３）　会長および副会長の選任は理事の互選による。

第４条（慶弔）

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

＜附則＞

第５条　（本細則の発効）

本細則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。

本細則は平成 11 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。

本細則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 17 年 12 月 4 日から発効する。

編集後記

OBの皆様、お元気でしょうか。観測史上最も暑かった夏がやっと終わったかと思いきや、10月下旬だというのに最高気温が12℃と11月下旬なみの気候になってしまいました。時代は移り変わるものでしょうが、高校時代に成田空港開港反対のビラをあちこちで見かけ、校舎の一角に椅子と机でバリケードが築かれて休校になったり、ほとんどの国民が農民を支援していた時代があったのに、羽田が国際線を飛ばすようになり、みんなが便利になったと喜び、成田は格安航空便を飛ばすしか対抗策がない、こんな世の中の変わり方をするとは思いもよりませんでした。国会では民主党が政権をとって菅直人総理大臣が頑張っていますが、普天間基地移設問題、尖閣列島問題、中国の反日デモ、メドベージェフの国後島訪問、＄＝81円を割り込み、ガソリンは125円/Lと高騰し、デフレから脱却できなく景気は悪く、株価は9206円と低迷しつづけ、仕分けで何でも削減され、少子高齢化、勤務医不足、人口減少、アメリカではオバマ大統領が中間選挙で下院で共和党に大敗をし、と大変な世の中です。＄＝360円という昭和の高度成長期に育ち、バブルの絶頂期に医師になった世代にとっては、活気と熱気のあったバブル時代が懐かしい。

長いこと四門会誌の編集を一人でしていただいてきた岡田先生に私が加わって手助けすることとなりましたのでよろしくお願いします。

201011/2
渡辺昭司

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

四門会　第１８号

発効日　平成22年11月発行
発行者　〒216-8511　神奈川県川崎市宮前区菅生２－１６－１
聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会
電話：044 977 8111　（代表）
会長　肥塚　泉
編集者　渡辺昭司
印刷所　株式会社　杏林舎